

# 生活支援コーディネーターの役割を知って協働しよう！ 暮らしやすい地域づくりの実現に向けて奔走するバイプレーヤー Vol.1



作業療法士  
生活支援コーディネーター  
宮上 竜輔 氏  
(高知市春野地域包括支援センター)



## ●役割・業務内容

制度やサービスだけでは対応しきれない生活課題に対し、地域に存在する人・活動・社会資源をつなぎながら、住民主体の支え合いを支援する役割を担っています

### ① 資源開発

体操や集いの場の立ち上げ、生活上の困りごと支援など、住民主体の地域活動を支援

### ② マッチング機能

本人の楽しみや目標、生活歴を踏まえ、地域資源や必要なサービスへのつなぎ

### ③ ネットワーク構築

地域住民、各事業者、医療機関、民間企業など、多様な主体による支え合いの仕組みづくり

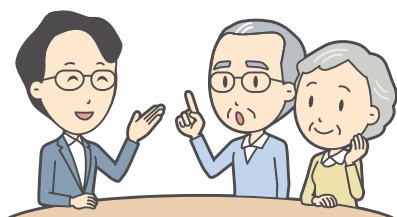
## ●対象

主に**要支援者やプレフレイル**の地域住民が中心ですが、病院を退院後、**地域での生活を継続**するための支援が必要な方も多く含まれます

## ●個別相談内容

### ◆春野地区だけでも、年間1,000件以上

- ・医療や介護に関する内容はもちろんですが、獣被害や空き家に関する内容など多岐にわたります
- ・**民生委員や近隣住民**から「配達物が溜まっていて心配」「最近姿を見ない」といった相談を受け、安否確認につながるケースもあります



## ●自宅訪問

### ◆主任ケアマネジャー・看護師・社会福祉士とともに生活状況を確認

- ・例えば、“以前利用していた通所介護や100歳体操に行けていない”病院受診ができていない方”など課題は様々であり、必要なサービス・機関へ繋げています。
- ・緊急性が高い場合は、短期間で何度も訪問することも！  
**日常的な見守りは民生委員と協力**して行うこともあります。



# 生活支援コーディネーターの役割を知って協働しよう！ 暮らしやすい地域づくりの実現に向けて奔走するバイプレーヤー Vol.2

## ●マッチングに関して

◆生活歴や趣味を聴取し活動サークルの紹介などをおこないます

・春野地区は100歳体操の会場が22か所あります

《外出支援でおこなうこと》

・関わり当初は、身体的・心理的・環境的な要因で外出が困難な方が多くいらっしゃいます。その際はご家族の送迎を相談させていただくことや、セニアカーや歩行補助具などの福祉用具の活用、介護保険サービスの検討といった支援を組み合わせつつ、外出につなげています。

・職員よりも信頼関係のある知人の方に声をかけてもらうことで、参加へのハードルが下がる場合もあります。(個人情報取り扱いには注意します)



作業療法士

生活支援コーディネーター

宮上 竜輔氏

(高知市春野地域包括支援センター)



## ●集いの場の課題

◆猛暑による外出機会減少によりフレイル増加の懸念

◆セルフマネジメント力を高めることが重要

・春野地区でも100歳体操やミニデイサービスなどの高齢者主体の地域活動は盛んに行われています。しかし、コロナ渦以前は一つの会場で20名程度の参加者がいたにも関わらず、現在は数名での活動を余儀なくされている会場もあります。高齢人口や高齢化率の影響に加え、外出機会が減少していると感じています。

・安心して外出や交流をしていただくためにも、公民館などに伺い、熱中症や脱水症の注意点など健康講座をおこなっています。特に医療従事者の方々が指導していただくことでセルフマネジメントの強化に繋がると思います。



## ●春野地区の課題と対応策

◆他地域でも移動手段の課題が多く取り上げられています

《デマンドタクシー（乗り合わせタクシー）》

到着地はスーパーや郵便局など複数決まっていますが、**目的が異なる方であっても複数名で利用が可能**です。金額が安く、たくさんの方が利用しています



# 生活支援コーディネーターの役割を知って協働しよう！ 暮らしやすい地域づくりの実現に向けて奔走するバイプレーヤー Vol.3

## ●生活支援コーディネーターを経験して変わったこと

- ◆ “地域住民の方々との連携や互助による支えあいの支援” が大切
- ◆ “地域資源を知っていただき、継続していく” ことが必要

活動目標を立案する中で、目標設定においても、自宅内だけでなく、知人宅やスーパーなど地域での生活場면을想定し、生活歴や地域特性を踏まえて「何のために取り組むのか」を考えるようになりました。

病棟勤務時代、『ショッピングモールへ買い物にいけるようになりたい』という方がいらっしました。その時は、安定した歩行能力等、身体機能の向上を主に意識していました。しかし、現在では、多くの方が行き交う環境での移動、休憩場所の確保、荷物の運搬、外出先でのトイレ動作など、非日常空間での生活動作をより具体的に想定するようになりました。



作業療法士  
生活支援コーディネーター  
宮上 竜輔 氏  
(高知市春野地域包括支援センター)

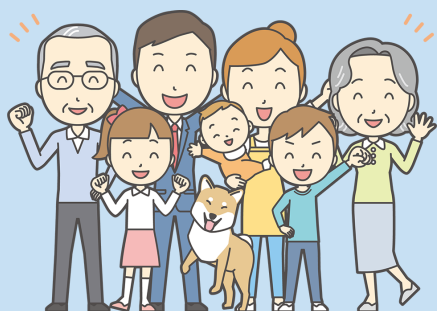


## ●医療⇄介護連携

- ◆ 切れ目のない支援をおこなうために

退院時に医療機関スタッフの方々から、“本人が目指す地域での生活・性格特性や価値観・生活上の注意点”といった情報を共有していただけることが非常に有用です。

また、退院後の生活に不安がある場合には、予後予測を共有いただくことで、多職種が共通認識を持ち、具体的な支援内容を検討しやすくなります。



## ●作業療法士の皆さまへメッセージ

介護保険制度が逼迫する中、医療機関、介護事業所、企業、そして地域住民が役割を分担しながら支え合うことが、本人の自立した生活支援につながり、ひいては市町村の活性化にも寄与すると考えています。

また、生活支援コーディネーターの役割は、作業療法士が大切にしてきた「生活」「作業」「その人らしさ」を、地域全体で支える仕組みづくりとも言えます。ぜひ、生活支援コーディネーターを地域における協働パートナーとして、地域の相談窓口として活用し、作業療法士の専門性を地域生活の場で発揮していただければ幸いです。